

2012年6月26日

内閣総理大臣
野田 佳彦 様

新日本婦人の会
会長 笠井貴美代

消費税増税法案、社会保障大改悪改悪法案などの衆院採決強行につよく抗議するとともに、参議院での廃案と衆議院の解散で国民の信を問うよう要求します

本日26日、民主・自民・公明3党は、わずか13時間の審議で、消費税増税、社会保障大改悪、子ども子育て新システムなどの談合法案の衆議院採決を強行しました。2009年の政権交代の公約をすべて投げ捨て、国民多数の反対の声も、議会制民主主義のルールも踏みやぶり、憲政史上に汚点を残す前代未聞の暴挙はぜったいに許されません。満身の怒りをもって抗議します。

強行された3党増税法案は、8%・10%への税率アップはそのままに、低所得者対策は先送り、高額所得者へのわずかばかりの増税法案も削っています。また、自民党案丸呑みの新法案「社会保障制度改革推進法案」は、憲法がかかげる「国の社会保障的義務」の基本理念を投げ捨て、社会保障を「自助」「助け合い」に変え、医療・年金・介護・生活保護などの給付を大きく削減する方向を法制化する重大法案です。子ども子育て新システム法案も、保育への公的責任を放棄し、市場化をはかる本質はなんら変わっていません。

一日も早い復興を求める被災地も、介護や医療・年金の負担増と給付減だけが押し付けられる高齢者も、子ども手当減額や年少扶養控除廃止による増税がおおいかにぶさる子育て世帯も、国民はかつてない生活苦を強いられています。「公約違反は許せない」「庶民の暮らしをまったくわかっていない」など、怒りがわきあがるのは当然です。

あらためて今日の暴挙につよく抗議するとともに、私たちは参議院での廃案をめざしたたかうとともに、野田首相が衆議院を解散し国民に信を問うことをつよく求めるものです。